

適正価格の構築急ぐ

ツ

ナ

缶



曇り

家庭用缶詰の最大カテゴリ。17年の国内生産は3・4万t（686万箱）で、前年比5%減。初めて700万箱を割り込んだ。一方で、輸入は4・6万tで2・9%増。競争力のある輸入品の増加が続く。国産は17年後半からのカツオ原料高騰や円安によるコストアップに直面。カツオ相場は18年春から落ち着きを取り戻しているが、下期以降はキハダの原料高で価格改定の動きも。ツナ製品の需要

は安定しているが、世界的な資源管理規制強化の流れもあり、コスト環境が厳しさを増す中で、適正価格の構築がテーマ。

ツナ缶詰の国内供給量

万t

